

2024 年重職者大学院秋学期

タイトル(重職者大学院開講礼拝および伝道学 3 講)

重職者一三か所 (使 2:10)

日時/場所 2024 年 11 月 17 日、オンライン

説教：柳光洙牧師(録音整理:チャ・ドンホ牧師)

聖書のみことば(使徒の働き 2:10)

フリュギアとパンフィリア、エジプト、クレネに近いリビア地方などに住む者、また滞在中のローマ人で、

24.11.17 重大院伝道学 3

「重職者一三か所」(使 2:10)

300%	序-祈りのやぐら (40日) 「聖霊の満たし」 (専門性) 1.7やぐら(完全福音)-私の 100% 2.7旅程(現場の答え 100%) 3.7道しるべ(絶対やぐら 100%)	パウロ-重職者 1.使 13:1-4 16:6-10 19:1-7 2. 13:5-12 16:16-18 19:8-20 3.ロマ 16 章(19:21 27:24)	本 1.家庭と教会 1)使 1:14 (カル、オリ、マル) 2)三つの祭り (五旬節) 3)使 2:10	2.現場 1)I コリ 10:19 2)ロマ 16:3-4 3)ロマ 16:25-27	3.次世代 1)使 18:4 2)使 18:24-28 3)ローマ-墓	結 1.3集中 7.7.7 (5力) 2.3セッティング 3.3答え	朝 -私を生かす 祈り 昼 人を生かす 祈り 夜 答えを受ける 祈り

* 序論:祈りのやぐら(40日)- 「聖霊の満たし」

▲重職者 1 人が、三か所を生かすことができます。まず重職者の皆さんは、今の年齢もそうで、立場もそうで、とても重要です。それゆえ、皆さんが祈りのやぐらを、特別に建ててください。ところで、ほとんどの信徒が、聖霊の満たしが何か、よく分かっていません。聖霊の満たしは、簡単に話せば、ヨハネが水でバプテスマを受けたように、聖霊でバプテスマを受けると言われたということです。とても多く満たされたことを言うのです。ところで、聖霊の満たしというとき、イエス様が教えられたことで満たされるべきだということです。

1)7 やぐら(完全福音)-私の 100%(専門性)

▲イエス様がやぐらを建てられました、7 やぐらを建てられたということです。ここに三位一体の神様の奥義が出て来ます。御座の奥義が出てきて、すばらしいのです。また、力が出て来ます。単なる力ではなくて、5力が出て来ます。この福音の中には過去/現在/未来に、みな勝つことができる、そのような力が与えられています。簡単に話せば、完全福音です。すると、もうここで空中の権威を持つ支配者に勝つ力も出て来て、CVDIP も見えて、未来でしょう。それでこそ、地の果てが見えるのです。地の果てを簡単に話せば、私は三つの庭を地の果てだと見ています。人ごとに違うこともあります。このようになったときに、完全福音になるとき、ここに私の 100%が出て来るのです。これがとても重要です。そして、これは専門性を言います。

2)7 旅程(現場の答え 100%)

▲重職者は、必ず覚えてください。旅程を話しました。このやぐらは旅程を行くためのやぐらだということ

とです。ここには完全に現場の答えを言うのです。現場の答え 100%を話すのです。なぜなら、神様が与えられた旅程に行くので 100%です。

3) 7 道しるべ(絶対やぐら 100%)

▲より重要なことは、道しるべです。7 道しるべということは、事実は、絶対やぐら 100%です。この三つのことがとても重要です。これはイエス様がおっしゃったことだからです。これが聖霊の満たしの奥義です。ほとんどの人々がこれをよく分からないので、祈りを間違ってしまうようになって、また、祈りの答えを受けられないようになるのです。

▲パウロと重職者の 300%

それゆえ、パウロとともにいた人々の 300%を一度見てみましょう。パウロとともにいた、この重職者です。この人々は 100%で何をしたかという...

1) 使 13:1-4、16:6-10、19:1-7

▲完全に聖霊の導きを受ける使 13:1-4、何でも確実な答え出てくる時までです。パウロはいつでもこのようにしました。ターニングポイント、そしてマルコ屋上の部屋の力を再び体験したのです。それゆえ、私に関する専門性 100%です。伝道もこのようにしてください。事業もこのようにしてください。必ず覚えてください。伝道、このようにしなければ実は結びません。特に私たちの重職者の方と、牧師が伝道する時は、必ずこのようにしてください。この話は何の話なのかという、行く前に答えを受けます。それが重要です。信徒が伝道に行く前に力を先に得るのです。そして、パウロはこれをとても上手にしました。

2) 使 13:5-12、16:16-18、19:8-20

▲その次にもう、地域ごとに違いますが、先ほど話した現場 100%を見たのです。このように暗闇を打ち破くことが起こりました。その町を掌握している悪霊につかれた者を治してしまっただけでしょう。そして、ティラノでは不治の病の者など、これが現場を完全に見たのです。

3) ロマ 16 章(使 19:21、27:24)

▲残りのことは何でしょうか。システムでしょう。事実は、システムが、ロマ 16 章の重職者が、ほとんどみなシステムだということです。

▲ですから、絶対やぐらの祝福を受けるから、答えを受けるしかありません。私たちの重職者の方は、必ず覚えてください。必ず事業もこのようにしてください。そして、マクドナルドのような、有名なそれはフリーメイソンがしています。ひとまずパンを作る技術が 100%です。ですから、この人々は行く所ごとに成功します。そして、現場性、とても場所をよくとらえるでしょう。場所を単にとらえるのではなく、車が何台過ぎ去る、人が何人過ぎ去る、計算をすべてするのです。そして、その人々が、それならこの地域ではどんなパンをおもに売るべきか、このようなシステムを作るのです。私たちの韓国の人々は、信じます、こう言って教会の信徒は始めるのですが、うまくできないのです。ハワイ集会に行ったとき、私たちの孫が来たのですが、子どもたちがマクドナルドに行こうと入りました。どのように分かるのか、子どもたちが好きなことをみな持って置いていたのです。子どもたちがたくさん集まるということがこの人々が分かるのです。それゆえ、この聖霊の満たしを正しく理解した重職者 1 人だけいても三か所を生かします。今日、この主人公は使 2:10 です。滞在中のローマ人、そう言われています。私はプリスカ夫婦だと見えています。

▲本論

1. 家庭と教会

▲では、この1人が完全に家庭と教会を生かしてしまっただけです。重職者1人が本当にこの祈りが何か分かれば、聖霊の満たしが何か分かれば、300%が何か分かれば、教会を生かします。ですから、皆さんがご存じのように、プリスカ夫婦が到着したところがコリントだったでしょう。ところで、このコリント教会が本当に問題が多かったということです。コリント教会はほとんど99%毎日、話だけして、戦って、こういうことだけをしていたのです。そこにプリスカ夫婦が来たのです。

1) 使 1:14(カル/オリ/マル)

▲そして、この人々は、すでに使 1:14 の中に入っていた人々だったということでしょう。この人々は、簡単に話せば、ミッションを確かに持って祈りに入ってきた人々です。すでにカルバリの丘の契約を知っている人々です。そしてオリーブ山のミッションを知っている人々です。そこに出席していたのか、そうでなければ知っていたのです。この人々がマルコの屋上の部屋に集まりました。神様が驚くことで働かれ始めました。

2) 三つの祭り(五旬節)

▲五旬節の日になって、その三つの祭りを意味するのです。逾越祭は私たちが救われたことで、仮庵祭は背景です。今日の力が何でしょうか。五旬節です。

3) 使 2:10

▲ところで、ここに見るとです。このプリスカ夫婦が参席していたのです。使 2:10 です。ですから、重職者1人が祈りが何かを知って、聖霊の満たしが何か知って、300%が何の話なのか分かれば、聖霊に満たされると、簡単に話せば、完ぺきに働かれてしまっただけです。

2. 現場

▲この重職者1人が、この答えを持っているから、完全に現場を生かしてしまっただけです。現場伝道が本格的に起こります。

1) I コリ 16:19

▲I コリ 16:19 です。この話は、単なる話ではありません。プリスカとその家にある教会、ここで人を生かす運動が続いて起こったのです。本当に、もし牧師がこのプリスカ夫婦のようなひとりに会った、それは、もう事実は終わったのです。パウロが世界福音化することができるように一生、助けたのです。そのような人が簡単でしょうか。その人の家で働きが起こり始めました。

2) ロマ 16:3-4

▲その程度ではありません。ロマ 16:3-4 を見ると、自分のいのちを危険にさらした、パウロの同労者だとそう言っています。

3) ロマ 16:25-27

▲なぜでしょうか。とても大きな現場の働きが起こったのを見たので、神様はこの人々にこれを(ロマ 16:25-27)与えられたのです。世々にわたって隠されていたこと、隠されていたことという話は、だれにでもあげることではない、そうでしょう。隠されていたということは、だれでも分かるのではないでしょう。これを与えられたのです。

3. 次世代

▲では、この聖霊の満たしとは何か、300%が何かをわかった人々が出てくると次世代が生かされます。重職者は三か所を生かすことができる祝福を持っています。

1) 使 18:4

▲では、いよいよ見てください。使 18:4 です。パウロとともに会堂に入りました。この会堂で安息日ごとに、この話は、その人々が礼拝して祈る時間です。そこに入って何を教えたのでしょうか。これを(序論)教えたのです。

2) 使 18:24-28

▲また重要なことが出て来ます。使 18:24-28 です。だれでしょうか。アポロです。このアポロに何を説明したかという、あなたは信じる時聖霊のバプテスマを受けたのか、尋ねたでしょう。簡単に話せば、これを(序論)説明したのです。そのときから、アポロが賢くて聖書もたくさん知っていたのですが、この力が臨むと、大きく働きが起こり始めました。

3) ローマ-墓

▲歴史に見れば、ローマにこの人々の墓があります。その話は、ローマで死んだということになります。その話はローマまで入って、次世代を生かす教育をしたということになります。

▲私たちが生まれて、本当に一度生きる人生なのに、プリスカ夫婦重職者のように、この契約を受ければ働きが起こるようになっていきます。多くの方々が信仰生活を良くしたいのですが、うまくできないということでしょう。どの牧師が教会復興させたくないでしょうか。みなさせたいでしょう、しかし、これが分かなければできません。重職者がみな教会に仕えたくて、牧師を助けたくて、みなそうです。ところが、この力が何かを分かなければ、事実は祈りを分らないということです。これがイエス様が 40 日教えられたことです。ものすごいことでしょう。これを分かれば重職者 1 人がみな生かすのです。この契約を皆さんが握ってください。皆さん 1 人が教会も生かして、現場も生かして、次世代を生かして、皆さん 1 人が答えを受ければ、当然、家庭も生かします。このような働きが起こるようになるのです。それゆえ、この契約を私たちの重職者が握ってください。今回、握るべきことは何でしょうか。これです。300%、いつでも覚えてください。レムナントは学校で勉強するとき、いつでもこれを(300%)覚えてください。小/中/高まではタラントを見つけて、大学に入ればこれを(300%)完成して出て来ててください。また、職場に行っても同じです。事業をしても同じです。さらに伝道はそうです。伝道は、このようにすれば、皆さんの教会は確かに生かされます。教役者はこれを覚えて、これは時間が多くかかるのか、そうでもありません。はやくする必要もありません。

▲では、パウロがこれを(使 13:1-4)はやくしたと考えますか。違うでしょう。聖霊からの、こと/人/場所が確実になる時まで祈ったのです。とても重要だと、断食して祈りました。では、伝道の門がふさがりました。私たちならば、落胆したり、他のことをしたり、度々このようにします。これ(使 16:6-10)見てください。どれくらい重要でしょうか。完全に答えが出てくる時まで祈ったのです。すると、驚くべき時刻表が出て来たでしょう。時代を変えるマケドニアに、これを知っているパウロは、ティラノに入る前にこれ(使 19:1-7)からしました。答えから受けたのです。ティラノに入る前に力から受けました。これをもってティラノに入ったのです。すべての信徒は伝道するとき、このようにしてください。そして、現場を 100%分析したのです。このとき(使 13:5-12、16:16-18、19:8-20)は、癒やしでパウロが見たのです。ですから、結局は、何でしょうか。ローマも見なければならぬ、それゆえ、パウロ、恐れてはなりません。カエサルの前に立ちま

す。このように確実な神様のみことばが成り立ち始めるのです。重要です。重職者の皆さんがメッセージの流れによく乗って、答えを受けてください。重職者の皆さんが力を受けてください。だれが何と言ってもです。どんな理論が出てきても、どんなみことばが出てきても、皆さんが答えを受けられなければ難しいのです。いろいろ話が多くても、教会が生かされなければ、地域を生かすことはできません。それゆえ、これを必ず守らなければなりません。

▲神様の恵みで、私の場合は、小学校を引き受けた時は、これを(使 13:1-4、16:6-10、19:1-7)とても簡単に理解しました。小学校でどんな答えが出てきたかという、小学生は卒業すれば中学校に行きますが、これは事実、終わりのように見えたのです。何も知らずに中学校に行きます。祈りは、とうてい分かりません。それではいけないでしょう。それゆえ、私がこの子どもたち、祈りを教えなければならない、それが私はこの部分でした。ところで、子どもたちがあちこちにいるのですが、どこで一番教えるのが良いのでしょうか。教会に呼ぶのも良いのですが、子どもたちに一番気楽にするなら学校の前です。それが私が見た現場です。現場を見ることができなければならないということです。そのとき、私が目にパッと見えたのが、それが屋上の部屋(タラップ)です。それとともに何を活用したかという、子どもたちを連れて聖書の学びをするのですが、重職者を活用したのです。雰囲気はどうなったのでしょうか。ですから、重職者の方がみな喜びのです。それをもって、私はびっくりしたのが、聖書の学びをしようとする、夏の聖書学校から始めたのですが、とても大きい家が教会、学校の前にあるのです。重職者が、私はとてもびっくりしました。これが世界福音化する、私には始まりになりました。皆さんがこれを(パウロの 300%)よく見てください。今、私がする専門性 100%が何なのか。これは、内容ということです。では、どのようにしなければならないのかは現場ということです。すると、だれがすべきでしょうか。これが(ロマ 16 章)システムになるのです。どれくらい恵みになるか分かりません。

▲そこで、それから高校生を伝道し始めたのですが、高校生に、これは(使 13:1-4、16:6-10、19:1-7)何でしょうか。とても簡単なのです。私が高校生に簡単に、長くてもいけません。簡単に読むことができるメッセージを書いたのです。そして、为什么呢。高校生は現場にいません。訪ねて行かなければなりません。私がそのときに高等学校の前に、(私の幼い時も住んでいて、私も学校に通っていたのに覚えていませんでした)そのときに、私にはパン屋がとても重要だったのです。おもにパン屋に呼びました。ある時は、学校の先生が知っている人がいるから、話して呼んだりもしました。おもに終わってから呼んだり、これが現場です。すると、その中に、学校の中に先生がいるということです。この先生がたいしたことをしたのでもないのですが、助けてくれるのです。私は柳伝道師のような人を初めて見たと言うのです。「なぜですか」どのように子どもを訪ねてきて、ずっとこのように来るのかということです。それしか方法がないでしょう。携帯電話があるのでもなく、行かなければなりません。そこですべてのことがみな起こります。神様が弟子を付けてくださったのです。

▲それゆえ、私が前に話したでしょう。この執事が、按手執事でしたが、とても感動を受けたのか、私を見て、伝道師、ちょっと食事してください、そう言って封筒を一つ渡してくれました。ありがとうございます、と受けたのですが、見るととても多かったのです。それで、とても多いな、そこで私が学生たちが動くのにお金が必要です。その子たちはお金がないでしょう。そこで、私がそれをあげたのです。私たちの伝道活動をして、集まってするところに、これを持って行って使いなさいとあげたのです。たいしたこともなかったのですが、その子たちが、とても難しいことを知って私があげたのですが、この事実をその執事が知ったのです。それで、どんなことが起こったのでしょうか。私たちが子どもたちを助けなければならない、伝道し

て祈るように、これを見てください。続いて答えの働きが起こります。重職者1人が契約を握れば、教会も生かして、現場も生かして、次世代も生かして、今回はこの契約を必ず握って行ってください。

* 結論

1) 3 集中

▲それゆえ、重職者の方は3集中を始めてください。3集中をすれば、ここで、これ(7・7・7)続けて祈るのです。これ(7・7・7)を続けて祈れば、結局は、これが(パウロの300%)全部見えるのです。ですから、多くの人々が、祈りですべてのことを、すべてするというをよく理解できなくなっています。祈りで、すべてのことを、すべてするのです。このようなこと(序論)が入っているのです。それゆえ、皆さんがひとまず、一番最初に5力が回復するのです。重職者の皆さん、力を受けてください。人を生かさなければならぬので、人の話を聞かずに、この力を受けてください。重職者の皆さんは家庭も生かさなければなりません。そうでしょう。教会も生かさなければなりません。ですから、教会に行つて、教会を生かそうとするなら、人を生かすのに、それをするには、この力が必要です。そして、やぐら/旅程/道しるべの、ものすごい力が出てくるでしょう。

2) 3 セッティング

▲そして、三つのセッティングが成されます。三つのセッティングは、答えが出て来たでしょう。プラットフォームが作られ始めるのです。プラットフォームが作られれば、そのときから、来るようになり始めます。来たら、そこで他の人が来ることができるように見張り台ができるのです。来たら、癒やしも起こり、完全にもうアンテナが建つのです。これを皆さんが味わってください。

3) 3 答え

▲それゆえ、3 答えという単語が出て来ます。どこにでも行けば問題があります。どこにでも行けば葛藤があります。私たちは生きてると危機も来ることがあります。その三つが答えです。

▲必ず、それゆえ、重職者の方が①朝にはおもに私を生かす祈り、②昼には人を生かす祈り、③夜には皆さんがそれこそ答えを受ける祈りです。夜には無条件に答えを受ける祈りです。このようにして、皆さんが教会を生かすしかありません、答えを受ければ。私たちの重大院でこのような重職者の方が出て来るように願います。皆さん1人のゆえに教会が生かされます。皆さん1人が答えを受けるから、現場も生かされて、皆さんが力を受けるから次世代も生かされて、そのようなことが起こります。

▲私たちの重大院に契約を堅く握って答えを受ける私たちの重職者になることを主イエス・キリストの御名によって祝福します。祈ります。

(祈り)

神様に感謝いたします。重職者時代が開かれたことを感謝いたします。神様が私たちのすべての重職者に初代教会で起こった契約をそのまま握る働きが始まりますように。まことの答えを受ける証人になりますように。重職者1人のゆえに牧会者が生かされ、教会が生かされる答えを必ず受け取りますように。私たちの重職者がいる所に現場が生かされる神様の働きが、当然起こりますように。主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン

(The end)